

酒々井町郷土研究会々報

第55号

平成2年1月1日

発行

酒々井町郷土研究会
編集

年頭によせて

会田 秀雄

明けましておめでとござい
ます。

月日のたつのは早いもので平
成元年もまたたく間に過ぎ去り
平成二年の新しい年を迎えまし
た。郷土研究会も役員始め皆様
方のご協力により無事十四年目
を迎える事が出来ました。衷心
より厚く御礼申し上げます。私
達の日頃の生活は年の暮となる
とせわしい感じとなり、新しい
年を迎えると何か改まった清々
しい気持ちになるものです。そ
して年の始めにたてた計画がど
こまで出来たか、又充分であつ
たか反省させてくれます。もし
て新年を迎えるとまた新しい抱
負と希望をもつて一年の計画を
たてるわけです。このような年
のけじめと自己反省こそ明日へ

迎春



の発展の契機としてきわめて大
切なことではないでしょうか。
弱い竹にも節目があつて幹を強
くしているように、人生にも節
目が大切と思われれます。本年も
会員の皆様のお力添えを得まし

て益々中身を充実させて行きた
いと考えて居ります。
最後に祈念申し上げますと
ご健勝を、郷土研究会に対し倍旧
のご支援、ご協力をお願い申し
上げ年頭のご挨拶と致します。



新年にあたって

社会教育課長
松居 龍正

酒々井町郷土研究会の皆様、
明けましておめでとございま
す。昨年は町も町制施行百周年
ということと各種の行事が催さ
れました。なかでも通年行事の
他に本佐倉時代祭りを始め六月
には馬橋の獅子舞が果のポート

クワード
十月には
墨の獅子
舞が果の
教育会館
で行なわ
れました。
又上岩橋

馬橋の獅子舞が産業祭りのなか
で行なわれましたが、町民の皆
様の中にはこの様な郷土芸能が
あることに改めて認識された方
もいたと思います。これを契機
に郷土研究会の皆様方も町内の
有形、無形の文化財はもとより、
他市町村のものにも益々見聞を
広められていたいただきたいと思
いますと同時に健康には充分気を
つけていただきたいと思ひます。

今年の干支は馬、今日馬
という足が細くスマートなサラ
ブレッドの競争馬の姿が浮かび
ますが、昔、馬といえは足は太く
体もがっちり逞しく、目はこ
の上もなく優しい家畜として人間
社会と一番深い関わりをもつて
いた駄馬の姿が浮かんできます。
馬のルーツをみますと、ヨーロッパ、
アジアの原産で世界各地
で家畜として飼育され、品種は
アラブ、サラブレッドなど數十
種あり、日本産のものでは南部
馬、三春馬、最上馬、仙台馬が
知られています。現在なお在
来種の面影を保っているのは、
水曹馬、御崎馬などです。(百
科事典参考)
大変雑駁な挨拶になってしま
いました。が今後も皆様のご指導
ご鞭撻をお願いいたします。最
後になりましたが年頭にあたり
郷土研究会の益々のご発展とご
健勝ご多幸を心からお祈り申し
あげ、挨拶といたします。



四苦八苦

青木 喜作

はじめに

日常会話で耳にすることは少ないが、例えば「減反の強化と買上価格据置きで米作農家四苦八苦」などの新聞記事があったりする。この四苦八苦についてまとめてみた。

語源

この言葉は何時頃から使われたかは明瞭ではないが、源はお釈迦様の教えである。お釈迦様は小国ながら皇太子として生まれ、結婚して子供もあつた。この頃の名前は、ガウタマ・シッダールタで、悟りを得て釈迦族の聖者となる。即ちお釈迦様の出来上りである。ところが釈迦の悟りとは何なのかと言うと先ず最初には何かと考えて「人生総てこれ苦」と言う結論に達した。この「苦」を八つの項目に並べ立てたものが「四苦八苦」と言われるものである。

四苦

一、生 人生が総て苦であるならば生まれる事は苦への第一歩である。

二、老 生きて居れば老いの果てがボケ

や寝たきりとなれば長生きを喜ぶどころではない。

三、病 痛苦については説明を要しない。

四、死 死の苦しみ、また説明するまでもない。

以上をまとめて四苦と言ひ、生きている人間の肉体の苦しみである、ことがわかる。

八苦

八苦と言っても八つの苦しみがあるわけではない。四苦の肉体の苦しみに対して、更に次の四つの心の苦しみを加えて八苦と言う。

一、求不得苦

人間の欲望は無限だから、いくら金があつても欲しいもの、次々と現れて、総ての欲しいものが手に入るとは限らない。欲しいものが手に入らない事は苦である。

二、愛別離苦

愛する人と別れなければならぬ苦。愛する人とは恋人や夫婦、親だけではない。親子、兄弟、親しい友人、知人と一時的な別離ならともかく、永遠の別離は耐えがたい苦である。

三、怨憎会苦

怨み、憎しみのある人にも会わなければならぬ苦。

四、五蘊苦

心の働きを色、受、想、行、識

の五つの段階に分けて説明する仏教用語であるが、今回は、詳しく誰にでもわかるように説明するには割り当てられた紙面ではむづかしいので、次に機会があれば書くとして、今は「心の働き」として前三項も含めた「人間に心のある事」が苦であるとする。

結び

ガウタマ・シッダールタは、苦をまとめ、即ち(一)四苦八苦を「苦の真理(苦諦)」とし、更に苦はどこから集つて来るか、つまり(二)苦の原因を追究し、これを苦の集りの真理(苦集諦)としたが、この段階でもう一つの現世の総ては空であると言う事に気付く。生きとし生ける者総ては死に至り、ありとあらゆる物はいずれ崩壊に至る。今在ると思っているものは総て実体はなく何かの原因(因縁)で仮にそれぞれ姿を現わしているに過ぎない。だから「在る」と言つても「無い」に等しく、即ち「空」であると言うのである。更に(三)苦が滅すればどうなるかを考えて苦の滅の真理(滅諦)とした。最後に苦を滅し(四)苦から解脱する道(方法)は何かを考え、苦を滅する道への真理(道諦)として、ここが「悟り」を得る事になる。悟った人を「ブツダ」と呼ぶので、彼はガウタマ・ブツダと呼ばれ、釈迦族の聖者であるから「釈迦牟尼」と通称されることになったのである。

舌足らずのわかりにくい文章になったが、機会ある毎に補筆したいと思うので御容赦頂きたい。

お知らせ

◎ 旧年十一月四日、酒々井町文化祭に於いて、郷土研究会が、文化協会の諸行事その他に長年協力してきたという事で文化協会協力賞をいただきました。副賞として文具セットもいただきましたので事務局にて使用させていただきます。

◎ 十一月二十七日、東金郷土研究愛好会員四十四名の皆さんが、酒々井町郷土研究会の熱心な活動状況をよく知りたいたいと来町され、相宗さんをはじめ、会田会長、副会長と団ご和やかな一時を過ごされました。わが会の活動が内外にも広く認められてきたのは、一重に会員の皆様の御協力のたまものと思われれます。これからもよろしくお願ひいたします。



明治天皇 木内常右衛門宅にて休憩のこと

押尾 克巳

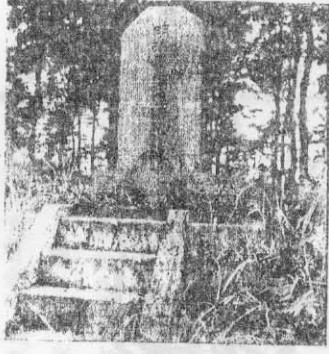
庭のさざんかの花のほころびにつれ 散策の足は歩数を増して行く。いつかは一歩踏みこんで確かめてみたいと思つていた「下り松」にある明治の聖蹟 明治天皇御駐蹕記念碑に趣く。登り口は茅におおわれ、やうと坂をのぼり碑の前に立つ。昔は木内家の庭園で眺望のきくよき築山であつたと聞くが、現在周りの雑木は大きくなり、浄水場の建物に視野を阻まれ、昔の面影は察するのみである。胸中に寂寥感がひろがる。

町制施行百年の記念すべき年故、後世のため何か書きおきたくなり筆をもちこいた。 明治十四年と明治十五年の二回に渡り、下総種畜場(後の三里塚御料牧場のこと)に明治天皇が行幸されたことは、昔故老より話を聞いた覚えもあり(町史にも書かれてあるようだが)、自分なりに調べてみた。その行幸のあり、酒々井中川村の木内常右衛門宅にて休憩されたことは、我が町として誠に光榮あることと思うので以下文献によりしるしたい。

第一回の明治十四年の行幸は、六月

二十八日、愛馬金華山号を召され皇居を出発。小松川の矢沢孫右衛門宅や伊子田村の中川せん宅にて休憩され、市川にて御渡船。そして船橋行在所の山口文吉宅に午後零時十五分お着きになり御駐駕。翌二十九日、船橋行在所を出発され、大和田の大沢小十郎宅にて御小憩後出発。次は臼井の大川源五衛門宅にて御昼飯。十一時五十分同所を出発してより午後零時三十分佐倉官所に御着。御休憩の後、兵営や蹟い所を御覧になり御小憩。更に練兵場にて練兵を御覧になり、一時三十分同所を出発され、二時三十分中川村(現在酒々井町下り松)の木内常右衛門宅にお着きになり暫く御休憩のち三時に出発。成田行在所の新勝寺に四時御着きになった。たちちに御座所に入御。供奉員達は所定の室に入られた。

内常右衛門宅にて御休憩されたと記録されている。この時の隨員の中には宮内少輔、山岡鉄太郎の名がある。当時の朝野新聞に「千葉県下佐倉町より成田駅に至る道路は、峻にして行人の難波せしを先に三十善講第三報思その他近傍の村より自費をもって坂路を切り下げの儀出願して許可を得て工事に着手。すでに完成に至り、本月五日主上種畜場に行幸の折には御通過遊ばされた。このことについては、後



明治天皇碑(昭和3年6月1日建碑) 酒々井築山

遺跡を偲ぶのも意義ある、と思ふ。前記の様に当時の成田街道は道幅も狭く、車馬を中心にした交通事情なので現在では想像もできない悪路であつただろう。 この行幸については、当時はまた町制施行以前なので中川村が主であつた筈で、警備の面や狂生の亭、天覧に関することなど打ち合わせの為、宮内省、県、色々な関係機関の係官等が中川村の戸長か名主を尋ねた筈である。この頃の記録が現存するならば是非発表して戴きたいと思う。貴重なことである。

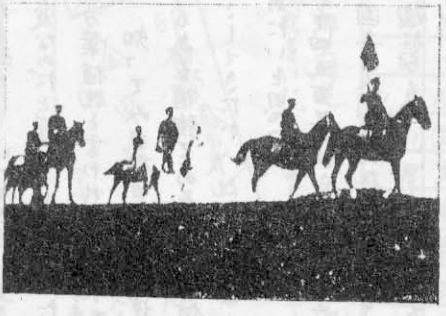


Table with 2 columns: '行幸御列' (Imperial Procession) and '上' (Upper). Lists various locations and figures associated with the emperor's visit, such as '少濱口', '中野', '大田', '野津少将', '古田少佐', etc.

万葉ひとと植物

亀井 香久乃

市川万葉植物園の見学は、生憎の雨天であったが、それなりの深みゆく秋を、種々の草花、樹木の葉枝に落していた。

市川は東京に近接し、遠い昔より文人墨客の往来し、居とした所ときけば、万葉に詠まれた歌の数かずも当然と言えよう。私は、改めて万葉歌を繙いたことはないが、万葉集なる言葉を口にするのはおこがましいが、たまく接することができたので、少し此の世界を覗いてみることにした。

一度だけの訪問では全てを心に留めることは無理なので、テキストを片手に再度にずねた。

趣のある格手戸入口を着り園内を進めば、正面にケヤキがある。人家とケヤキは、どこでも馴染み深いものだが、傍らに立つ歌を読めば、昔から聖域にある貴樹として、「齋楓」と呼ばれ大切にされてきたそうである。ケヤキの根元にはヤブコウジがひっそりと赤い実をつけている。

この雪の消え残る時にいざ行かぬ
山橋の寒の照るを見む。
大伴家持 卷十九 四二二六

「残雪のあるうちに、山へ行き赤い実が白い雪に照り映えるを見物しよう」とは長閑な歌である。

春されば、まず三枝の草くあらば
後にも逢はむ莫恋ひそ吾妹
柿本人麿 卷十 一八九五

イカリソウにも、ミツマタにも同じ歌がついていたが、三枝とは、ミツマタの方が適切に思うが、如何であらうか。

「古名でつぎね、ヒトリジスカロの歌では、嶺々に咲くつぎねを見ながら馬で行く人も、わが夫は徒歩で行くとは悲しい。母の形見の鏡と、美しい布を持ち行き馬と換えて下さい。」と心やさしい女性の長歌もある。

まんようびとが、こぞつて愛した紫草では
託馬野に、生ける紫草衣に染め
また着すして色に出でにけり
笠女郎 卷三 三九四

多くの歌を残し、万葉集最終編者と思われる大伴家持に、笠女郎が贈る歌と知れば、二人は恋人同志であったのか。それとも、下の句で、「いまだ着すして」との意味は、「まだ契りがなされない」と解釈されているところを見れば、笠女郎の片想いであったのか。其の切りを思い巡らすのも心楽しい。

ムラサキという草は当時から管理され保護されていた植物で、男女の綾なす心模様にも枕言葉として多く使われている。

むらさきのはほえる妹を憎くあらば
人妻ゆえにわれ恋ひめやむ
天武天皇 卷一 二一
あかねさす紫野行き標野行き
野守は見ずや君が袖振る
額田王 卷一 二十

以上二首も、大友有名である。十月六日の見学会の時、説明下さった水谷武夫先生は、歴史にも詳しく、至甲の乱についても一しきりお話し下さった。先生は、万葉集と共に人生を過ごされた方のように、音声も静かなやわらかい響きは、聴く者の心に沁みわたる。



異性への愛、肉親への愛を歌で伝え、歌で答えるものを相聞歌、永別の際に詠むものを挽歌、その他、四季の雑歌、と区別されている。いやはや、なまじきりつけない大変の世界と認めざるを得ない。だが次の一首には、至極共感を覚えた。

絶ゆることなく宮仕えせむ
菫菜に延ひおぼとれる屎がすら
高宮王 卷十六 三八五五
其の歌意は、ソウキヨウ、又の名を



「オオバマルバノホロシ」

カワラフジ、と古名で呼ばれていた現在のマメ科植物で、鋭い下向きの刺を持つジャケツイバラ、(つる性低木)に絡みつき、よじ上り生きるヘクソカズラ、(あかね科)を人間社会での辛い宮仕えにかけた詠むをすれば、いつの世も、生きる営みは大変なのだと思嘆してしまつた。
万葉植物と言われている木本、草本は、知ってみれば日常、私達の身近にいつもある植物である。日頃何気なく見過ごしてきたが、これからは心して見つめたいと思つた。
千四五百年、いやそれ以前から日本国土に人間と共存共栄してきた植物、動物にちも、いつくまでも絶えることのないよう祈ると共に自然保護につとめたい。
付け焼き刃の浅い知識なので、間違ひの部分を業しつ、ペンを置いた。参考は、自日文庫『万葉集』に基づきます。
付記、十月六日、自然観察園通過の際、湿原内左側で見た赤い実の草の名は、「オオバマルバノホロシ」(なす科)でした。

妙義山

寒郡 義一

澄み渡った妙義町の秋の空であった。故郷し遍歴した旅人が立ち寄って創った詩の里、その背景にリンゴの実がかがやいている。遅咲きのコスモスが道路の脇で...

旅の人よ見上げてご覧。あの峻を限りなく連ねる豪壮な峻で風雅な妙義山の山艷を、これが霊峰妙義なのだ。峰の八合目辺りに祀られてある大の字の権現様まで登ってみようか。私は思案した。よし挑戦するのが人生だ。往復一時間強とのことだ。さあ皆で登ろう。私は先頭に立った。少し冷んやりとする登山口は落葉で埋められている。一歩一歩、登る道は秋の寂寥感がただよっている。楓の原生林だ。甘い香りのする白い「ギボウシ」の群生を傍らに見ながら、石が崩れて無くなつてしまつた細い道を踏み場を見付けて歩く。巨木が横倒れになつていて出足を遮断する。木を組んで階段をわずかにこしらえてある細い登り道。巨大な岩に取りつつけられた鎖の助け綱。それにしがみついてよじ上る。冷や汗が背中に流れるのを感じた。三人が先達になり

私は後続となつてしまった。疲れてきた。「まだ先頭は権現様まで行かないか」と声をかけると「あと百米だよー」と声返ってくる。名も知らない鳥が...

「あつた。然しこんな処で一人残されたらどうしよう」と恐怖心が湧く。引き返そうと思つたが此処まで来て残念だと石の上に腰を下ろした。深呼吸を繰り返す。上を見ると小道が迂回しながらまだまだ続いていく。足の運びもやとの狭い崖道を岩に伝わり、また鎖の助け綱につかまり、「よいいしよう」とよじ上る。まだ行き着かない。... 見える空が樹林の間から見える。やつたぞ！もう一歩だ。登り着いた。目的の大権現様に六名登り着くことが出来た。拍手喝采だ。見下ろす妙義の町は静かに呼吸をしている。そして汗を渡り冬に向かつてゆつくりと動いていた。



みんなで一緒に登るのよ！
かこんでくんでもつきないがつかまいます。
よもやまばなれがどうぞあなたもお仲間

講演会報告

十一月十一日、午後一時三十分より中央公民館視聴覚室に於いて、国立歴史民俗博物館教授 福田豊彦先生を迎えて、郷土研究会主催の創立百周年協賛記念講演会が開催されました。町長・教育長をはじめ他町村からもみえた八十余名の参加者で、急遽補助イスマも出された会場には熱気が溢れました。

中世武士団を専門に研究されてこられた福田先生は「千葉氏の成立と印旛地方」と題して、当時の本佐倉に百有余年城居し、この地で終焉を迎えた千葉氏が坂東の地で成立してから、その時々の大きな政治的、経済的な変革にどのように対処し、ついには下総の地の七十五%を占拠する大武士団に成長していったかをお話し下さいました。最後に『平家物語』のもとになったという「源平闘争録巻第五」の一節を読まれると軍馬いななき、弓矢飛び交う戦いの緊張感が会場に流れ、あたかも中世の世界を垣間見たと感じる一瞬を過ぎました。

Table with columns: 日付 (Date), 内容 (Content), 参加人数 (Attendance). Rows include events like '野草の会', '文談会', '一泊見学会', '名勝探訪', '文化講演会', '史談会', '東金郷土研究愛好会', '県内見学会', '史談会', '名勝探訪', '運営委員会', '会報校正'.

郷土研日誌 (10月, 12月)



東金郷土研究愛好会より 御礼状をいただきました。 会田 秀雄 様

郷土研行事業内

平成2年1月~3月

	1月	2月	3月
史談会	休	10日(土) 午後1時30分 「古今佐倉真佐子」を読む会 中央公民館	10日(土) 午後1時(現地学習) 「古今佐倉真佐子」を読む会 中央公民館(雨欠社)
名勝探訪 野草の会	17日(水) 京成酒々井駅9:09出発 佐倉道を歩く(19) 京成酒々井駅-ユカガ池-モルル-中学校碑 徒歩-称念寺-先崎地蔵-鷲神社- 徒歩-中学校-北公園下-徒歩-小竹城跡- ユカガ池-志津駅-徒歩-成田道標- 加賀清水-志津駅(雨天中止)	22日(木) 野草の会 七草粥を食べる会 中央公民館講堂 定員 80名 申込受付 1月28日 午後1時 会費 500円 (総会当日 受付で徴収します)	14日(水) 京成酒々井駅9:09出発 佐倉道を歩く(20) 京成酒々井駅-臼井駅-雷電為右衛門の墓- 雷電碑-大田園書墓-臼井城跡-天満宮- 八幡神社-川口宗重墓-臼井城- 円成寺-阿多津の碑-明治天皇碑- 長瀬寺-謙信一夜城碑-臼井駅(雨天欠社)
平成2年度 総会	<p>1月28日(日)</p> <p>午後1時受付 午後1時30分開会 中央公民館講堂</p> <p>・平成2年度会費受付 年額 1,000円 ・七草粥を食べる会の申込の受付もします 会費 500円 定員 80名</p> <p>議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成元年度事業報告及び決算報告 ・平成元年度会計監査報告 ・平成元年度事業及び決算の承認について ・平成2年度事業計画案及び予算案について ・その他 <p>総会終了後 酒々井の民話・房総500選(酒々井)のビデオを観賞します。</p>		

名勝探訪

佐倉道を歩く

一月十七日(水)

志津地区の名勝探訪です。まずユカガ池からモノレールで団地内の中学校駅で下車、菅野の称念寺の「大むくろじ」を見学、さらに先崎の「先崎の地蔵さん」鷲神社の「本殿」境内の「大けやき」を見学します。鷲神社の本殿の彫刻は地方神社には稀な彫刻です。

このあとモノレールまで帰り、公園駅で下車、小竹城跡を訪ねます。この城跡は土塁・空堀がよく残っています。次は志津駅に至り「加賀清水」「成田道路標」を見学します。

三月十日(水)

臼井地区の見学で、臼井駅下車、雷電為右衛門の墓・同碑・大田園書の墓・臼井城本丸跡・八幡神社・川口宗重の墓・円成寺・阿多津の墓・長瀬寺・上杉謙信一夜城跡碑を訪ねます。臼井城は本佐倉城の支城で、戦国時代は本佐倉城の前線基地として上杉謙信や太田道灌とも戦って、勝ち敗れたりしております。そんな関係で名勝旧跡は数多くあります。

前記の場所は一日見学コースとして選んだものです。時間の余裕があれば、この外に臼井城の外郭めぐり、近江八景を摸してつくった臼井八景めぐりなどもあります。当日は臨機応変で実施します。

会計報告	
1/6	京川万葉植物園見学会
収入	会費 1,300 * 33 = 42,900
支出	町バス使用料 10,800 年寄者補償費 42,352 不足 1,752円 町バスに不足
1/24-25	磯部村長・泊屋見学会
収入	会費 2,100 * 53 + 8 = 111,308
支出	バス代 257,500 資料送料 19,200 箱田料 569,750 昼食2回分 167,300 飲料用補償費 69,103 送印金 500 * 53 26,500 1,102,353 残金 3,655円 磯部村へ納入
1/7-8	釜山方面見学会
収入	会費 1500 * 80 = 120,000
支出	町バス代 10,300 * 2 = 20,600 保険料 1,000 昼食材料補償費 75,737 97,337 残金 22,663円 町へ納入

編集後記

明けましておめでとございます。昨年は町制百年の記念すべき年として町民それぞれ種々の行事を楽しみました。一方、年明け早々には昭和天皇の崩御で昭和が平成に、郷土研としては木村千里さん、室賀淳吉さん、宮本博司さんといった会費足当初からの諸兄姉とお別れなど悲しみも多かった年でした。今年はそのまんま平成二年、二十一世紀へあと十年、酒々井町制百一年、郷土研誕生十四周年、私のエトの年などと何かよいことの多くありそうな予感。郷土研も新しい時代に即した、楽しい中にも愚に流れず、地に足をつけた行事を心がけて行きたいと思っております。会員の皆様のお力をお願いたします。

